

三大夏風邪「手足口病」「ヘルパンギーナ」「アデノウィルス（プール熱）」

夏にかかりやすい感染症と感染経路冬のインフルエンザが流行するのと同じくらい真夏にも患者数が多いです。

免疫が発達していない子どもは特に夏風邪などの感染症にかかりやすく、特に3歳以下の子どもはまだ頭が小さいのでそのぶん、鼻や喉を通る気管が細いので、鼻水や痰がちょっとつまっただけでも息苦しくなります。そのため、眠れない、飲めない、食べられないといった辛い症状が出やすいのも特徴です。

ウイルスは体内に3~4週間潜伏し、便と一緒に排出されます。潜伏期間はずっとウイルスが排出され続けていますから、特に唾液や、手の接触、おむつ替えなどで人から人へ移りやすいと言われています。接触感染で移ります。また、夏風邪は子どもがかかるものと思いかちですが、

子どもからその家族へと感染が広がることがあります。高温多湿の夏は夏風邪の原因となるウイルスや菌が増殖しやすく、特効薬はなく1シーズンに3種かかったというケースもあります。



手足口病

症状

- ・潜伏期間は、3~6日
- ・口の中・手の平・足の裏や甲に水疱性の発疹、発熱、爪がはがれることも
- ・口内炎の痛みから、飲食を受けつけずに「脱水」になることも
- ・まれに髄膜炎の合併

ヘルパンギーナ

症状

- ・潜伏期間は、3~6日
- ・突然の発熱（1~3日づく）
- ・のどの強い痛み、のどの発疹・水疱
- ・飲食を受けつけずに、「脱水」になることも
- ・高熱から、「熱性けいれん」を起こすことも